

午後0時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告します。御手洗監査事務局長から早退の申出がっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 2番議員、伊原でございます。

初めに、午前にもお話がございましたが、東日本大震災から、明日で10年目を迎えます。

ふるさとに帰ることなく仮設住宅でお住まいの方々の一日も早い平穏な生活を迎えられるよう、心より念じています。

さて、本市から直線距離で約970キロ離れた東京を中心にオリンピック・パラリンピック開催に向けて準備が進められています。

コロナ禍により1年延期になりましたが、冬季開催を含め今世紀4回目のオリンピックに係る予算総額は、1兆6,440億円、九州のとある自治体の年間予算の2倍に相当する支出となる見込みです。

庶民感覚では計り知れない予算総額ですが、国の一般会計予算の不足分は、毎年、赤字国債発行によって賄われています。

増え続ける財政赤字予算枠の中で、新年度以降、本市を含めた自治体への交付税措置削減が求められるのではないかと危惧をしております。

本題に入ります。

本市は、古の時代から農林漁業などの第1次産業を中心に栄えてまいりました。近年の1次産業の従事人口は、20%以下で推移し、加えて著しい高齢化、後継者不足に陥っています。

国境離島「つしま」の永續には、「しま」に住む人々が安心して生活できる基盤づくりには、従事人口の底上げ、加えて、若年層による働き手の確保が求められています。

本日は、私のこれからの取組に掲げています、活力ある島づくり、「地域」づくり、つまり、原点回帰を求めて、次の内容にて質問させていただきます。

1点目は、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生、2点目は、人口増加のための移住・定住受入れ強化策、3点目は、学校統廃合計画の遷延と年少人口の底上げについて、サブタイトルとしたしましては本市の現状と将来像の3点でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

1点目、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生についてでございます。

本市は、古くから、農林漁業を柱とした集落が形成され、自然の恵みを享受しつつ、現代社会の基盤が確立されました。

自然豊かでありました森では、有害鳥獣によって固有の希少植物の食害、さらに、手入れの行き届いていない森と里の境界線の縮小によって、餌を求めて栽培農地や宅地まで進入し、地域によっては防護柵や防護ネットの中で生活を余儀なくされているのが現状でございます。

また、温暖化による地球環境の影響もありますが、海域では豊富な海藻類の恵みにより、その地域には潤いと活気をもたらしていましたが、近年、漁獲高の低迷により、自然の恵みが失われつつあります。

古きよき時代の「しま」の形成を未来へと継承するため、今、「しま」に生きる我々世代がこの役割を演じることは責務であると考えています。

それぞれの生態系との連環に特化した食の基盤づくりには、森・川・里・海の豊かな恵みへの再生が求められています。

本市のキャッチフレーズにございますが、自立と循環の宝の島として、これからのいかなる時代を迎えても、食の安定供給の基盤づくりが最も有効な手段だと考えております。

このことを確固たる状況に導くためには、農協、漁協、森林組合などの関係団体との強力な連携による農林漁業再生プロジェクト立ち上げが必要と感じていますが、御見解についてお尋ねいたします。

2点目でございます。

人口増加のための移住・定住受入れ強化策といたしまして、昨年6月定例会で人口問題に関して質問を行いました。質問から9か月が経過していますが、頂いた資料によりますと、昨年4月から本年1月までの人口移動は、転入者741名、転出者は843名で、10か月間で102名の転出超過が報告されています。

転出超過の主な要因は、大学や専門学校への進学、就職、転勤など、やむを得ない事情もございますが、第二次対馬市総合計画では「本市ならではの移住・定住対策を充実することにより、人口減少対策に取り組むことが期待される」と明記されていますが、島の活性化・存続には転入超過による社会増が施策の最重要課題として捉えています。

移住・定住を導くための施策の一つに空き家バンク制度があり、直近の数値では13件の登録のうち5件の成約が確認されています。

移住・定住には住まいの確保も重要でありますので、本市への移住や定住を希望される方々から電話やメールなどで問合せがあった場合、果たして担当窓口は兼任配置で十分な対応ができているのでしょうか、やや疑問を抱いています。

一人でも多く移住・定住増に携われるよう、専任職員、もしくは新規に担当課を設置するお考えはないでしょうか。御見解についてお尋ねいたします。

3点目でございます。

学校統廃合計画の遷延と年少人口の底上げについてでございます。

学校統廃合計画につきましては、一昨年の9月定例会で質問を行ったところです。

その時点で、昭和62年から令和2年までの33年間で、小学校22校、中学校17校が閉校となりました。

本市にとりましても、児童数の減少によって教育現場から子供の明るい声が地域にこだますることなく、たまらない寂寥感を抱いている一人でもあります。

しかし、本年3月号の広報つしまによりますと、豊玉町小綱小学校が147年間の歴史の幕を閉じることが掲載をされていました。

また、地域や保護者への説明は既に終えましたが、来年は、33年間続いた巖原町佐須中学校が閉校になる予定でございます。

閉校となる過程に至るまでには、学校適正規模・適正配置等検討委員会での答申が行われた後に、それぞれの保護者をはじめ地域の方々の御理解により決定していますが、本市のみならず、国内の地方でも人口減少が加速し、やむなく統廃合が進められています。

このような、地域における閉塞感からの脱却には、教育行政と市長部局との連携による有効な子育て支援策が求められていると考えています。

地域に根差した幼児・教育施設の存続のためには、合計特殊出生率を高め、さらに、年少人口割合の底上げに向けた施策の取組が不可欠です。

このための進捗状況について、どのように取り組んであるのかお尋ねいたします。

以上3点について、よろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生についてでございますけども、このことについての現状は、よく御承知のことと思っておりますので、時間の関係上、割愛させていただきます。

対馬市では森林づくり基本計画に基づき、森・川・里・海の循環の仕組みの構築を進めているところではありますが、森林の生態系の持つ役割は、森林内だけにとどまるものではなく、特に水の循環につきましては森林が大きな役割を担っております。

対馬市は森林から海までの距離が短いことから、森林での施業が直接、沿岸部の漁業に影響することが考えられるところでもあります。

これらを踏まえまして、生態系の連環に特化した対馬市の農林漁業再生に向けての取組としまして、今後さらなる有害鳥獣対策強化を行いながら、貴重な資源としてジビエの有効活用を拡充してまいります。

また、森林環境の回復を図り豊富な森林資源の活用を促進するとともに、シイタケ栽培の持続

継承も行ってまいります。併せまして、環境保全型農業の推進により水田、畑作の維持も継続してまいります。

また、水産業における取組としては、水産多面的機能発揮対策事業を活用した河川流域での植林事業についての地元要望が高まっておりますので、予算確保に向けて取り組むとともに、継続してモニタリング調査を行うことで藻場の現状把握や効果検証に努めてまいります。

これらの取組を通じて、生態系の循環を実現するために集落営農組織の充実強化を図るとともに、生産者団体の島内直売所の活用や未利用魚の有効活用に努め、安価で安定した学校給食や飲食店等への食材提供を充実させてまいります。

議員、御指摘の、農林漁業再生プロジェクトに代わる団体として対馬市異業種間連携・交流協議会などと連携し、地産・地消の推進に向けて協議を重ねながら、流通の核となる島内流通機能を有した組織の育成を図ることで、地元はもとより観光客の皆様にもしまの魅力を最大限発揮していただけるよう取り組んでまいります。

異業種間連携を強化することで、生態系の連環への意識醸成を図り、安心・安全で魅力ある食の基盤づくりに努めてまいります。

次に、人口増加のための移住・定住受入れ強化策についてでございますが、令和2年1月から12月までの異動人口は、転出者が1,546人、転入者が1,163人であり、383人の社会減となっております。遡れば、平成30年が154人の社会減、令和元年が360人の社会減となっており、年々、社会減が大きくなっている現状でございます。

人口動態の社会増減データを年齢、性別で分析したところ、25歳から49歳の女性の転入と転出の差が、平成30年のプラス25名から令和2年はマイナス66名と減少に転じており、この要因は、転勤者の世帯状況による減少が主な要因ではないかと判断しているところであります。

また、65歳高齢人口につきましても、若干ではございますけれども年々減少しており、親の介護のための子供のUターンよりも、親が子供の生活拠点に転出するケースが増えてきているのではないかと考えております。

このような中で、移住・定住推進における取組を充実していくため、平成29年4月に「しまぐらし応援室」を設置し、移住者向けの専用窓口を設けております。

さらに移住施策専用の「しまぐらしポータルサイト」を開設し、空き家バンク制度の拡充などにも取り組んでおります。

また、平成30年7月からは、移住者に向けた情報発信、移住後のアフターフォローなどの業務を担うため、しまぐらしコーディネーターとして、島おこし協働隊員を雇用し、空き家バンクの掘り起こし、移住者情報の収集など、これまでの移住・定住施策の評価と検証も含めて、移住・定住推進体制の整備を図ってきたところであります。

人口減少対策は、本市の取り組む重要施策であり、移住・定住の推進もその一つでございます。本市といたしましては、移住者の目線で移住・定住を支援するしまづくりコーディネーター及びコミュニティー支援員など、島おこし協働隊を専任職員として配置しており、その後の状況に応じ専任職員の配置も考えてまいりたいと思っております。

次に、年少人口割合の底上げについてでございますけれども、本市の令和3年1月末現在の6歳から14歳の年少人口割合は7.2%であり、2020年の全国平均12.3%と比べましても低い状況で、少子化対策の取組は喫緊の課題であります。

本市の少子化対策としましては、令和2年度が初年度となります第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、人口減少対策の中で各施策を推進しているところでございます。

この総合戦略では2つの重点目標を掲げており、その一つを、「2025年における年間出生数200名を維持する。」としております。

重点目標を実現するための主要施策として島っこ留学推進事業や幼児教育・保育の無償化事業、地元事業者への働き方改革推進事業、縁結びプロジェクト事業を掲げて、各担当課において取組を進めているところでございます。

なお、新たに取組を始めました地元事業者への働き方改革推進事業は、出産、子育てがしやすい職場環境を民間企業にも一緒になって整備していけるよう、認定や表彰などの制度を構築するものであります。

また、総合戦略に掲げる重点目標達成のために取り組む主な子育て支援についてでございますが、保育行政関係につきましましては、国の保育料無償化の対象外となる2歳以下園児に係る保育料につきましまして、国の基準額に対し7割から9割の範囲で設定することによる負担軽減対策、そして、国の保育料の無償化に併せた市独自の副食費の無償化を継続して行っております。

なお、安心して子供を産み育てる居住環境の形成を促進するための事業である子育て応援住宅支援事業、子育て世代をサポートするための地域子育て支援拠点事業、放課後児童クラブなどにつきましても、子育て世代のニーズを捉えつつ事業の継続を行うとともに、令和3年度からの新たな子育て支援事業といたしまして、ファミリーサポートセンター事業を開始する予定としております。

さらに中対馬地区において、幼稚園教育の提供を行う環境づくり、並びに老朽化が進む現施設を集約し、安心・安全な保育環境づくりのため、豊玉地区において認定こども園の新設を予定しております。

今後も子供を生み育てる環境にある市民の皆様が安心して出産・育児ができるよう支援対策の拡充を含め、生活設計の安定化、若者の島外流出抑制のための取組など多方面での事業展開を図り、重点目標の達成と年少人口割合の引き上げに向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） ありがとうございます。

午前中も有害鳥獣対策について質問が上がったと思いますが、若干、質問が重複して市長お疲れと思いますので、やんわりと質問させていただきます。

参考によろしゅうございますか。

昨年11月、イノシシの幼獣に遭遇いたしました。県道44号線。イノシシは年1回に2頭から8頭が生まれるということで、年平均が4.5頭とのことでした。鹿については年1回ということでございます。

このとき7頭の固体が確認されております。番号振っていますけど、お分かりになりますかね。どうも、イノシシがこの対策について私に質問してほしいというような、そういったことじゃなかったかなというふうに考えております。

捕獲はしておりますけれども、絶滅にはやっぱり相当時間を要するのではないかと感じています。

幼獣もこの後、山の中に、どっかに消えていきましたが、この幼獣には必ず成獣がどっかで見ておりますので、登下校、教育委員会さんにはもう既に御相談申し上げておりますけど、登下校のときにこういった状況もございますので、十分また処理をぜひお願いしたいと思っております。

次は、鹿とイノシシの10年間の捕獲数を担当部局より資料を頂きましたので、グラフ化しております。2020年のみ12月までの捕獲数でございましたので、捕獲数を月平均に置き換え、その数値をグラフ化した資料でございます。左が2011年から鹿の月平均の捕獲数、右側がイノシシの捕獲数です。10年間平均の捕獲数は、鹿月740頭、イノシシ480頭、これだけ捕獲しても市内各地で出没しているのが現状でございます。

地域に防護柵や防護ネットのない時代を迎えるには、有害鳥獣の確実な生息数、それから生息調査が必要と考えております。確認は、先ほど午前中もされてありましたが、ある程度実態調査されていると、まあ、県も含めてですね、されていると思いますが、例えば、ドローンあたりで今後調査する必要があるんじゃないかと思っておりますので、このことを念頭に、やはり、どの地域にどれだけ生息しているということをしっかりと把握されたほうが無難じゃないかと思っております。

先ほど言いましたように7頭の個体数、これがまた来年どっかで同じような状況でなると思っておりますので、増えると思っておりますので、このことをしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

それから、第1次産業につきましても、午前中、取組について質問と、それから回答がございました。

特に農協、農業団体におきまして、いろんな形で農協さんに御相談申し上げている案件があるようでございますけれども、どうも温度差があつて、あまりうまく進まないというジレンマがあるようございますので、これ、担当部のほうと一度、中に入つていただいて、どういった問題点、課題があるのか、それを円滑にいくようにどうすべきかということを一度、できましたら、市の職員さん、担当部局の派遣をお願いできればなと思っております。

人口減少によって担い手不足ということも、これはもう重々承知しております。特に農業におきましては、大変やっぱりいろんな思いを、今もまだ思いをされているのが現状でございます。

自動運転の陸上の実験があつておりますけれども、これは以前は海のほうでモーターボートの自動運転も一度ございましたですね。農業について、やっばこれからスマート農業、これを少し考えていく必要があるんじゃないかろうかと。

この自動運転も農地のほうは安全なところでございますので、まあ、収穫まで含めたその状況下で、少しスマート農業の取り入れあたりも、先ほどのお話じゃございませんけれども、午前は坂本議員さんから漁協関係の話がございましたが、私は農業に関してのお願いというか、そのあたりも含めて、担当部局との調整をぜひ、是が非でもお願いをしたいというふうに考えております。

それから、漁協につきましても一本化のお話がございました。これは割愛させていただきます。私の専門する得意分野でございませぬので。坂本議員さんがしっかりとそこは話をされておりますので。

このような形で第1次産業のいろんな問題点がございませぬので、今後どうすべきかということも含めて、いろんな形でまた検証、研究を是が非でもしていただきたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

それから、人口減少、そのための移住・定住受入れ強化策ということでございます。

この問題につきましても、地方のどの自治体も人口減少に歯止めがかからないということで、その対策に大変苦慮されております。

本市につきましても、1年以上前から、残念ながら3万人以下ということになってまいりました。

第2次総合計画では、4年後、2025年の話も先ほどございましたが、3万人を目標に掲げてあります。

具体的には、出産、子育て、雇用対策、移住対策に取り組むことが明記されておりますが、担当窓口の兼任では目標達成に至らないのではないかとこのように考えています。

人口減少になりますと、当然、島の経済活動が成立しないと、そういうことが当然ございますので、担い手不足を補う上で何とか島の人口増加に向けた、しっかりとした取組が必要と思っておりますので、市長の心強い何か御回答ございましたらお願いをしたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 移住・定住の担当の専任ということでもありますけども、先ほどの答弁の中で若干申し上げましたけども、今現在、しまづくり推進部の中のしまの力創生課のほうで、この移住・定住、そしてU・Iターンに関する業務を行っているところであります。

ここで、今、その業務に関わっている職員が3人と、それと島おこし協働隊が4人、この移住・定住関係に関わっております。

特に、この正職員の3人も、これが専任でということになりますと、なかなか今度ほかの業務が補佐的にやりにくいもんですから、まず正を設けて、必ず副を設けてというような形で、いずれにせよ、この3人が、この移住・定住、そしてU・Iターン関係に関わっているということで御理解を頂ければというふうに思っております。

そして、島おこし協働隊のほうは、上・中・下という形でコミュニティー支援員を配置しておりますし、この令和2年の6月1日からは、もう1名専任で配置をしているところでございます。

そういう関係で、今後もいろいろと研究、そしてまた、工夫をしながら努めてまいりたいと思っておりますけども、もしどうしても、それでもなかなか移住定住が進展しないというようなことであれば、さらにまた、いろいろと対策等を考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） まあ、担当課7名ほど今、担当される職員さん7名ほど配置されているということでございます。

当然、一体化した流れで進められているというふうに理解しておりますけれども、決して横断的にならないように、話が即できるような体制づくり、これが最も重要でございますので、このあたりをしっかりとまた取り組んでいただければと思っております。

それから、空き家バンクも少し軌道に乗ったような状況のように捉えております。まだまだ若干成約が少のうございますけれども、一番は、やっぱり職、それから住まい、住居だと思わすね。移住・定住には、

きれいな住宅とそうでない住宅いろいろございましょうけど、当然、改修も行われてそれなりの予算もありますので。とにかく島外からお見えの方は、奥様がやっぱり水回りを一番懸念されるんですね。水回り、一番金のかかるところ。

トイレもそうでしょうし、それからキッチンもそうでしょうし、そのあたりもしっかり、私、写真で確認させていただいておりますけど、ある程度きれいな状況でございますけれども、その移住なされる方については、奥様の意見を重々吸い上げて、もしその予算で可能であれば、そのあたりをしっかりと改修のほうにさせていただければなど、経験上お話をしておるわけです。是が



非でもお願いしたいというふうに思っております。

それから、次に入ります。

学校統廃合の計画ということで、子育て支援につきましては、6月補正予算でしたか、一般不妊治療費の助成金事業、それから不育用治療助成金事業等が盛り込まれて、子育て支援策の第一歩の事業として捉えております。

また、先ほどお話がございましたように、中地区に認定こども園の整備ということでも今年度の新年度予算で計上されております。

いずれにしても、子育て世帯の心強い施策ということでございますので、子育て支援策としましては最高の取組であろうかと思っております。ただ、10年前、20年前このような状況下で取り組んでいただければ、まあ過去のことになりますけれども、少し遅かったような気がしております。

それから、今からちょうど7年前ですか、2014年九州管内の市区町村別特殊出生率の上位25番の中で、本市は2.18という高い数値で第5位でございましたですね。お隣の壱岐市は第9位で2.14、第1位は鹿児島県の伊仙町、これが2.81でございました。直近の年間出生数は200人以下で推移をしておりますが、特に、若者世代が極端に少なくなっておりますので、当然、底上げは必要と思っております。

私自身、人口減少については、議員の一人として全て市へ問題提起をするのではなく、市と議会が一体となって、移住・定住、それから子育て支援促進を含めた強力な取組の一体化は不可欠と考えております。

余談でございますけれども、市長は岡山県の奈義町というところは御存じでしょうか、人口は6,000人弱です。岡山県の奈義町です。はい。

農林業主体の自治体でございますけれども、ここの合計特殊出生率が、先ほどの鹿児島県伊仙町より高い2.95という驚異的な数値でございます。

これは、どういった取組をしているのか、——当然ホームページもございますけれども、担当者の派遣とか、少し調査研究をなされたほうがよろしいんじゃないかというような、この町の取組を是が非でも一度、派遣をしていただければなど。いい状況下で毎年同じような数値でございますので、相当の取組をしておられるんじゃないかと考えております。

今後の市政運営の礎となるように参考にされたいと思っておりますので、是が非でもよろしく願いいたします。

何度も午前もお話がございましたけれども、人口減少によって島の経済が停滞する、これが一番悲しい話でございます。このことは担当の方もしっかりと考えてはおられると思いますので、私たちが質問するだけじゃなくて、何らかの対策を講じる必要ということで議会のほうも少し、

このあたりの取組が必要かなと思っております。

担当委員会は総務のほうになるんですかね。そのあたりも少し、今度の新しいメンバー構成で、その辺の視察あたりも今後考えていただいて、少し、勉強、研究をしていただければなと思っております。

担当部のほうも、いろいろ、今回、問題提起いたしましたけれども、森・川・海・里づくりもそうです。それから、人口減少対策もそうです。それから、有害鳥獣もそうでしょうけれども、担当職員がいろいろな御苦勞なさっているのを重々私も承知をしております。

山の中もお一人では当然危険性がございますので、何らかの対策、対応を進めながら、——今の状況は本当に悲惨な状況ですね。各地域では、森の再生ということで、植林とかをされている地域もございますけれども、これを少し全島に広げるような、市内に広げるような、拡充するようなことも、今後、当然考えていただきながら進めていただければなと思っております。

いろいろ大変な状況かと思っております。職員数も減少しつつ、これから十分な取組がまだまだできないというジレンマがあらうかと思っております。

私たちが質問する一方的な質問ではなくて、やっぱり何らかの形でいい方向にあれば、当然、もう少し勉強もしながら進めたいと思っておりますので、また、御提案等ございましたら、市長のほうからも何かございましたら是が非でも問題提起をしていただきたいと思いますと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開は1時55分からとします。

午後1時41分休憩

午後1時54分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。

5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。会派つしまの小島徳重でございます。本日最後の登壇となりました。市長さんをはじめ、皆さんお疲れのこととは思いますが、実りある御答弁をお願いしたいと思います。

それでは、通告に従い、3項目5点お尋ねいたします。

1項目め、観光振興の推進についてお尋ねします。